

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ刈谷松坂（第一単位・第二単位）		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な保育士、理学療法士、児童指導員、社会福祉士や心理系など資格を持つ各専門職員がそれぞれの専門性を発揮して子どもたちの成長・発達に繋がるように支援している。	各専門分野の職員が相談を行ないプログラム作成を行なっている。36の基本動作をベースにした集団活動によって子どもの身体機能の発達を促進し、ルールのあるゲーム化することで理解力、認識力、判断力を高められるようにしている	親子参加型イベント等を増やすことによって職員との関係や親同士のつながりを増やしていきたい。職員の専門性を伸ばすために研修を定期的に行っている。
2	イベントや活動など学校や普段の生活では体験できないような経験をする機会を日々設けている	日常では味わえない体験や経験をする事が出来るように食ううしている。子どもたちが集団を意識して過ごすことが出来るように環境設定や声のかけ方など工夫している	子どもたちが飽きないように同じ活動でも難易度を変えたり、新たなルールを取り入れたりして楽しく取り組めるようにしていく。また、体験を重ねることで自信に繋げていく。
3	異年齢の子の関わりによって同世代の子ではうまく交われない子や遠慮がちな子も関わりを持ったり、役割を与えることでやがいがいに繋がられている。また、家庭や学校の困りごとを聞いて保護者様の悩みに寄り添っている。	家族支援や関係連携支援を行ない、保護者様や学校・園と情報共有をして連携を図りながら支援を進めている	学校から出される宿題がその子のレベルに合っていないこともあるので、そのギャップを埋めるために課題に合ったものに取り組み理解度を高めていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	汚れてしまったり、臭いがこもってしまったりすることがあり、衛生環境の指摘をされたことがある	おやつ等食事の際に床にこぼれてしまうことがある。建物の構造上窓が少ないので喚起されにくい。	保護者様のお迎え後の清掃だけでなく、食事のあとに自分で汚した場所は自分で綺麗にするように職員が関わりながら掃除するなどして清潔な状態を保つ。フロアマットの貼り替えや換気扇の調子が悪い等あったので修理していく
2	玩具や物を置く場所など環境への配慮が甘く怪我をしてしまった児童がいる	遊びに夢中になっている時に、荷物を置く位置やお友だちがいる狭いところを通ってしまいぶつけてしまう。整理整頓が出来ずに散らかしたままになってしまう児童がいて踏んでしまうことなどが考えられる。	遊んで良いエリアなど声掛けだけでなく、視覚的にもわかるように印をつける。整理整頓の意識が持てるように支援していく。職員が目が満遍まんべんなく届くように配置を考える
3			